

桐原石部神社

所在地 三島郡和島村上桐

関 繁 雄

和島村村史編さん室より、和島村の植物を調べて欲しいと依頼されて現在調査中である。

社叢についても調べているが、その中で立派なものについて報告する。

新潟から 116号線で大河津分水を過ぎ越後線踏切手前600m左手に、標高30m程の木の繁っている丘が近くに見える。その林の中に桐原石部神社がある。

神社の歴史は古く、延長五年(927)延喜式神名帳の古志郡六座の中にその名が見えるという。

かつて神社を中心にかんりの邑が広がっていたと思われ、神社の少し下の畑から多くの土師器や須恵器の破片が出土する。

境内は丘の上の平坦地でかなり広



三島郡和島村石部神社(1992 7 10)



三島郡和島村石部神社のハリギリ(1992 7 10)

い。丘の周辺は南側から東～北側へと大部分私有地の杉林で囲まれる。社殿の前方から東側下へ石段が続き、降り下れば上桐の集落への道がある。境内西側はなにもなく段々畑となり丘下の人家へ続く。

社叢林について(木本のみ)

(1) 石段にそって (胸径=胸高直径)

下段には胸径37cmを最大として数本のヒノキが生育する。

中段には胸径 100cmと120cm のスギがあるが、樹高 27m程で、本社叢林では最大のスギである。

上段には胸径35cm、樹高24m のカラスザンショウや胸径54cm、樹高25m のイヌシデが生育する。また奥殿脇には胸径90cm、樹高27m のイチョウも生育する。

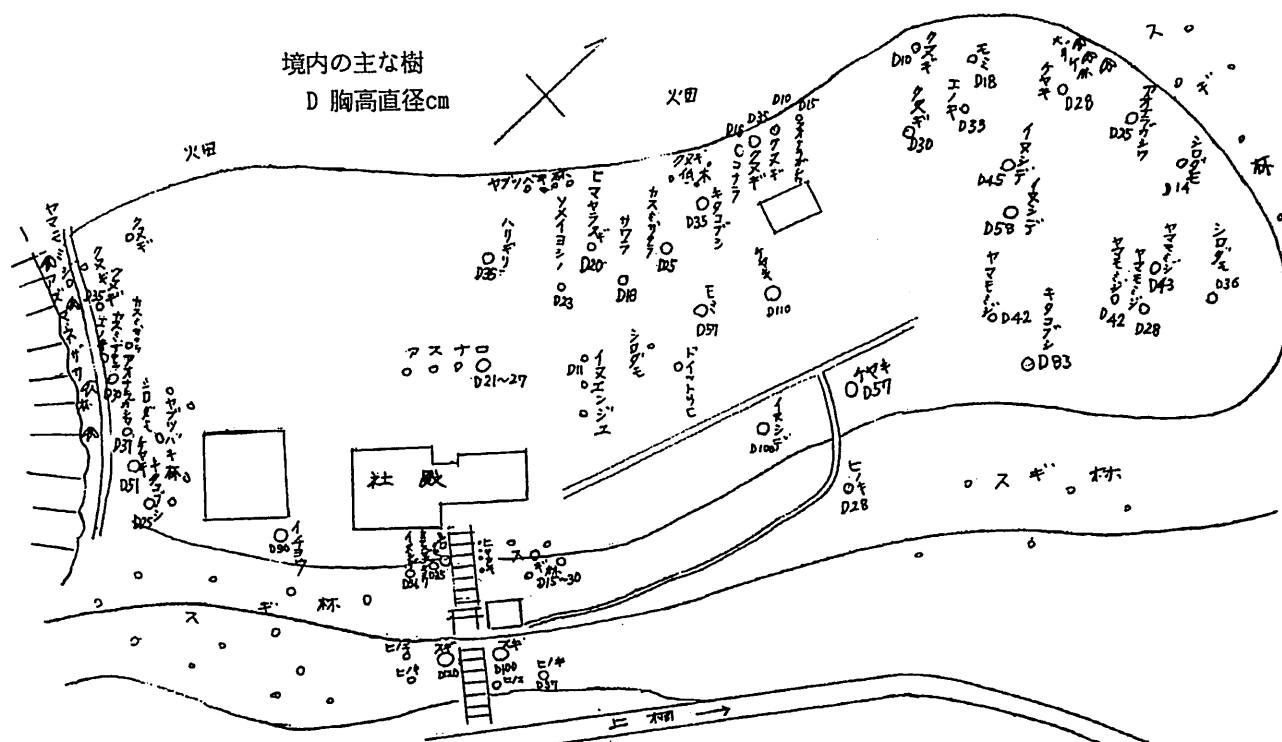
(2) 中央部

社殿前の道脇沿いにイヌエンジュ、シロダモ、ドイツトウヒの亜高木の他、胸径75cmのモミ、胸径110cm のケヤキなどが生育する。道の反対側には胸径100cm のイヌシデ、胸径57cmのケヤキなどが分布する。

畑側には胸径35cmのハリギリ、胸径35cmのキタコブシ、胸径25cmのカシミザクラ、胸径35cmを最大とするクヌギ林、さらにヤブツバキの低木林が分布する。

(3) 社殿の後部

断崖側にアズマネザサ林、胸径20~35cmのクヌギ、胸径



30~35cmのヤマモミジ、胸径105cmのケヤキ、胸径31cmのアオナラガシワなどの他カスミザクラ、キタコブシ、ヤブツバキ林なども分布する。

(4) 北側

胸径30cmのクヌギ、胸径33cmのエノキ、胸径45~58cmのイヌシデ、胸径28~43cmのヤマモミジ、胸径83cmのキタコブシ、他ケヤキ、アオナラガシワ、シロダモ、ヤダケ林などが分布する。

まとめ

この神社で驚くことは胸径30cm以上の高木の多いことである。実はそれなりの理由がある。この神社の御神木は「古事記に上桐の御神木」とある、シデノキであり、上桐の集落の方々がシデノキを中心に木を大切に育ててこられたからである。昭和12年7月7日大人二人が両手を回してもとどかない大きなシデの御神木が倒れた。丁度その日は日中戦争が始まった日であり、人々は「桐原様も戦争に行かした」とささやいた。数年たって集落の方が弥彦神社へ聞きに行き村の神社境内のシデの森から神木として植えなおしたということである(和島村部落史 一上桐三ヶ村)。

私は植えなおしたというシデノキを探したがそれらしい木をついに発見できなかった。散歩に来た近所の御老人に聞いてみたが「さあヒノキでねえかの」とおっしゃるばかりで要領を得なかった。

境内の木本を調べてみるとイヌシデは4本あった。いずれも胸径45cm以上で一番大きいものは100cm、樹高35m程で巨大なものであった。

倒れた御神木「しでの木」も多分この様に巨大なイヌシデで老衰したか、雷落かで幹に穴があいており一寸した衝撃で倒れたのではなからうか。また、なぜ神木としたかその理由もわからないが「しでの木」は「死出の木」でそれに触れると罰があたると恐れられたという(前記村史)。

イヌシデはこの集落の周辺の山にも生育している木で特別に移植する木ではない。またキタコブシ、クヌギ、ケヤキ、ヤマモミジ、カスミザクラ、ハリギリなど、本社叢林の大木も、ほとんどこの土地周辺に生育する木本である。つまり、何かの理由で、ここに自然に生育している木々からイヌシデを神木と選定したものであろう。いずれにせよ、神木「しでの木」の桐原神社として、集落の方々は社叢林を大切に今日まで守ってきたのである。